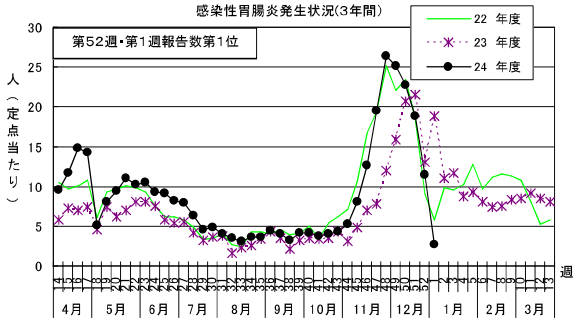
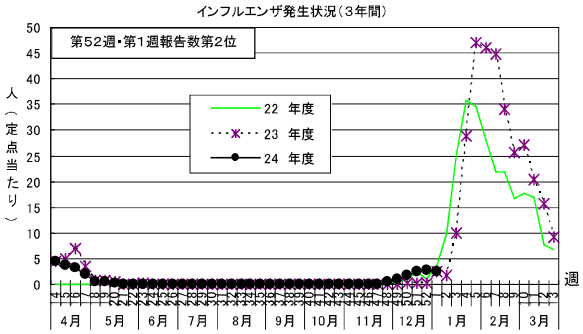
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２４年１２月２４日（月）～平成２５年１月６日（日）〔平成２４年第５２週・平成２５年第１週〕の感染症発生状況

平成２４年第５２週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)インフルエンザ　3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
腸チフスの届出が１件（推定感染経路：経口、推定感染地域：ミャンマー）ありました。
平成２５年第１週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)インフルエンザ　3)水痘でした。
ただし、今回は年末年始で、多くの医療機関が休診であったため、全体的に患者報告数が少ない状況となっています。
そのため、今後の発生動向に注意する必要があります。

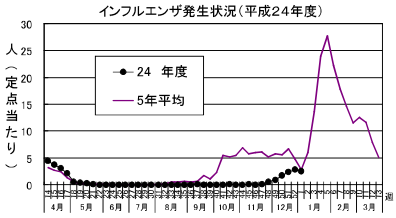




『咳エチケット』をみんなに広めて！！
インフルエンザを誰にも広げない！！

例年、今の時期から2月上旬のピークにかけてインフルエンザの患者数が急増します（右グラフ参照）。

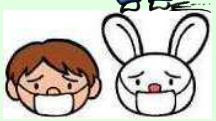
そのため、手洗いや予防接種などの対策をとるとともに、自分が患者になったときに他人に感染させないための「咳エチケット」についても心がけましょう。



咳エチケットを守りましょう！！

咳、くしゃみをする時には、周りの人に感染させないように「咳エチケット」を守りましょう。

1. 咳やくしゃみなどの呼吸器症状がある方は、必ずマスクを着用しましょう。
2. 咳やくしゃみをするときは、ハンカチやティッシュで口や鼻を押さえ、ウイルスの飛散を防ぎましょう。
3. 使用したティッシュなどは、ゴミ箱に捨てましょう。
4. 咳やくしゃみをした後は、石けんを使用して、よく手を洗いましょう。



発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２００－２４１２

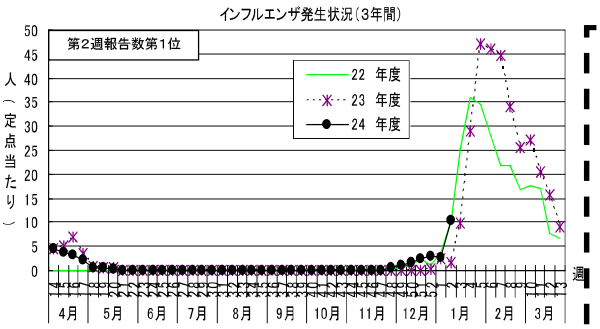
今、何の病気が流行しているか！

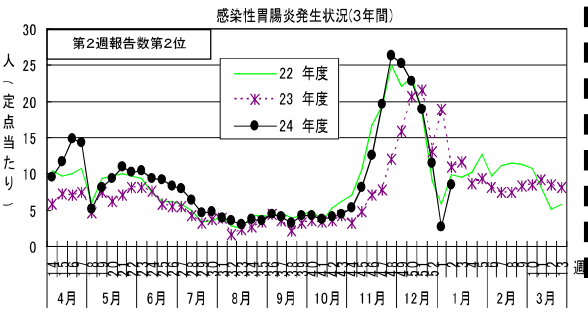
【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年１月７日（月）～１月１３日（日）〔平成２５年第２週〕の感染症発生状況

第２週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ　2)感染性胃腸炎　3)水痘でした。
インフルエンザは定点当たり１０．３７人と前週（２．５４）より患者報告数は大幅に増加し、流行発生注意報基準値（定点当たり１０人）を超えました。
感染性胃腸炎は定点当たり８．５５人と前週（２．６７）より患者報告数は増加しましたが、例年よりやや低いレベルで推移しています。
腸管出血性大腸菌感染症の届出が１件（推定感染経路：不明、推定感染地域：国内）ありました。

お詫び　平成２５年１月９日発行(平成２４年第５２週・平成２５年第１週分)の本紙中　「感染性胃腸炎発生状況（３年間）」の２２年度のグラフに訂正がありました。※一部訂正が反映された発行物もあります。





『インフルエンザ』流行発生注意報発令！！

川崎市内における第２週のインフルエンザ報告数が定点当たり１０．３７人となり、流行発生注意報基準値（定点当たり10人）を超えました。

今後の大きな流行に備え、手洗い・うがい及び咳エチケットなどの予防対策を徹底することが重要です。

	インフルエンザの特徴
流行シーズン	12～3月頃に流行のピークがあることが多い。
病気の経過は？	典型的には突然の発熱で始まり、38℃を超える高熱となる。
症状は？	高熱、悪寒、頭痛、鼻水、関節痛、咳など
発熱は？	高熱（38～39℃以上）、通常の風邪より高い熱が出る。
潜伏期間は？	１～３日間

インフルエンザにかからないために気をつけたいこと

①外出から帰ったら手を洗い、うがいをしましょう。
②外出する時は、マスクを着用しましょう。
③不必要な外出はやめて、できるだけ人ごみを避けましょう。
④加湿をしましょう。
⑤十分な休養とバランスのよい食事をとり、健康管理に気をつけましょう。

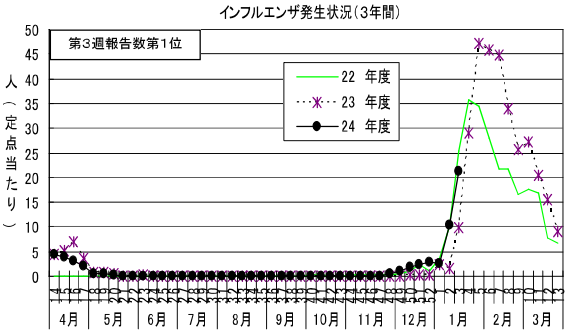
発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２００－２４１２

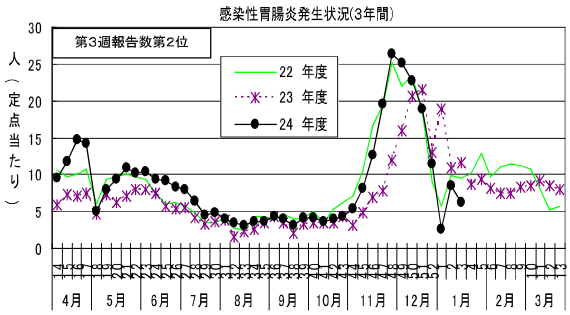
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年１月１４日（月）～１月２０日（日）〔平成２５年第３週〕の感染症発生状況

第３週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ　2)感染性胃腸炎　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
インフルエンザは定点当たり２１．３１人と前週（１０．３７）より患者報告数は大幅に増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎は定点当たり６．３０人と前週（８．５５）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり１．６１人と前週（１．３９）より患者報告数は増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。



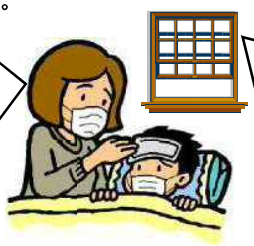


ストップ インフルエンザ～まん延防止の主役はあなた～

左のグラフのとおり、インフルエンザの患者報告数が大幅に増加しています。そこで、今回は「自宅看病のポイント」及び「インフルエンザにかかったときの心構え」について御紹介します。

看病する人のポイント

①看病する人は、患者とともにマスクを着用しましょう（できれば手袋も）。
②患者と接触した後は、手洗いをしましょう。



部屋環境のポイント

①湿度を 50～60%に保ちましょう。
※ぬれたバスタオル等を部屋に干すと効果的です。
②こまめに換気をしましょう（1時間に数回）。
※風の入口と出口をつくり、風が通り抜けるようにすると効果的です。

インフルエンザにかかったときの心構え

①処方された薬を確実に服薬しましょう。
②主治医に指示された期間、受診以外の外出を控えましょう。
③受診や看護を受けるときは、咳エチケットを心がけ、マスクを着用しましょう。
※咳エチケットとは、咳・くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけることです。
④咳エチケットの後は、手洗いも忘れずに行いましょう。

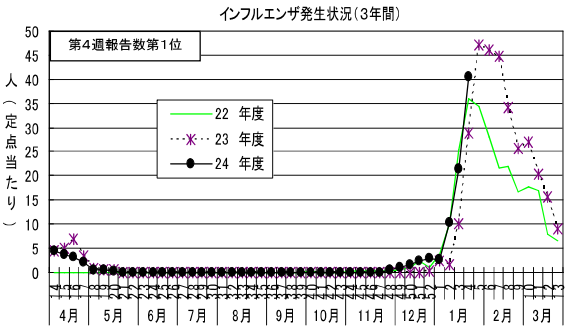
発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２００－２４１２

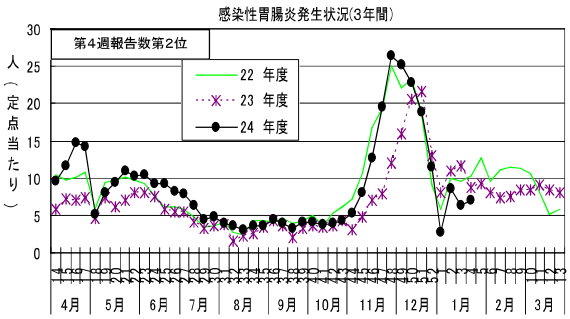
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年１月２１日（月）～１月２７日（日）〔平成２５年第４週〕の感染症発生状況

第４週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ　2)感染性胃腸炎　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
インフルエンザは定点当たり４０．４４人と前週（２１．３１）より患者報告数は急増し、流行発生警報基準値を大幅に超えたため、平成２５年１月２９日にインフルエンザ流行発生警報を発令しました。
感染性胃腸炎は定点当たり６．９７人と前週（６．３０）より患者報告数はやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。





『インフルエンザ』流行発生警報発令！！

左グラフのとおり、１月以降、インフルエンザの患者報告数が急増しており、川崎市内でインフルエンザの感染が拡大しています。

そのため、今まで以上に、周囲の方から感染しない、また感染させない対策の徹底が重要であるとともに、最新の流行状況の把握に努めることが重要です。

インフルエンザの主な感染源は、感染者からくしゃみやせきなどで放出されたしぶき（細かいだ液や鼻汁）です。このしぶきに含まれるウイルスを近距離で吸い込むこと等により感染します。会話の際などの近い距離で受けるくしゃみやせきには要注意です。

※インフルエンザの特徴や流行状況などの情報を収集し、今年の冬を乗り切りましょう！！

市内の最新の感染症流行状況をメールでお知らせします。みなさんの登録をお待ちしています。

感染症情報をメール配信しています！

概要　メール配信サービスに登録していただいた方に、定期的（原則毎週水曜日）に、最新の「今、何の病気が流行しているか」と「市内感染症情報」のＰＤＦファイルを、登録いただいたメールアドレスへ配信します。※パソコン向けサービスで、携帯電話では御利用できません。

登録方法　登録方法については、次のＵＲＬにアクセスしてください。
http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000032052.html

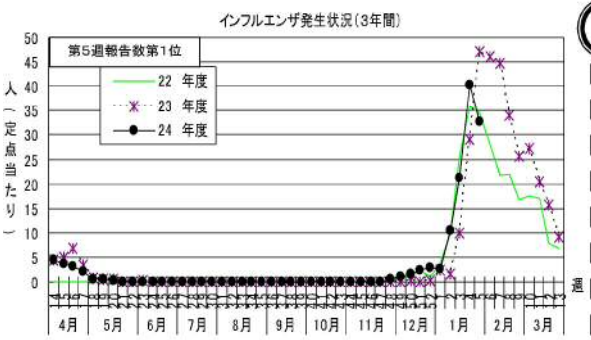
発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２００－２４１２

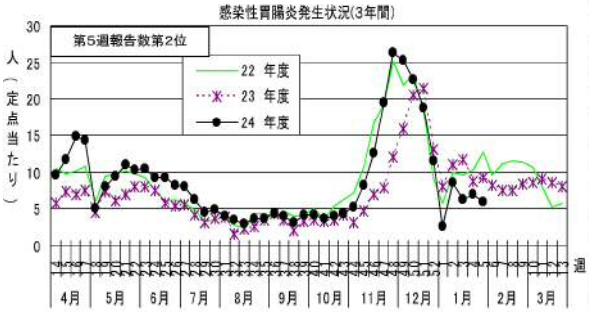
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年１月２８日（月）～２月３日（日）〔平成２５年第５週〕の感染症発生状況

第５週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ　2)感染性胃腸炎　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
インフルエンザは定点当たり３２．８０人と前週（４０．４４）より患者報告数は減少しましたが、依然として流行発生警報基準値（定点当たり３０人）を超えているため、引き続き注意が必要です。
感染性胃腸炎は定点当たり５．９１人と前週（６．９７）より患者報告数はやや減少し、例年より低いレベルで推移しています。





インフルエンザ流行発生警報発令中！引き続き注意を!!

インフルエンザの患者報告数は、前週（第４週）は、定点当たり４０．４４人で流行発生警報基準値（定点当たり３０人）を超えましたが、今週（第５週）は、定点当たり３２．８０人に減少しました。
しかし、依然として流行発生警報基準値を超えていますので、引き続き注意が必要です。

右の図のとおり、川崎区と多摩区では定点当たり４０人、高津区と宮前区でも定点当たり３０人を超える流行となっています。
自分が感染しないように予防対策をとるとともに他人に感染させないように咳エチケットなどを積極的に実践しましょう。

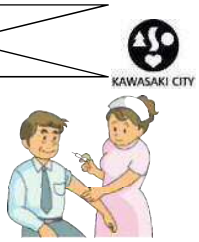
インフルエンザにかからないために気をつけたいこと

①外出から帰ったら手を洗い、うがいをしましょう。
②外出する時は、マスクを着用しましょう。
③不必要な外出はやめ、できるだけ人ごみを避けましょう。
④加湿をしましょう。
⑤十分な休養とバランスのよい食事で、健康管理に気をつけましょう。

発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２００－２４１２

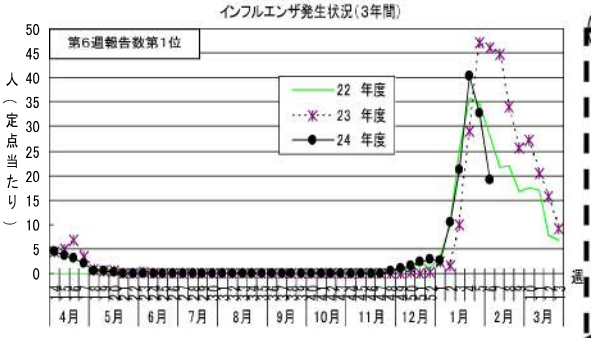
今、何の病気が流行しているか！

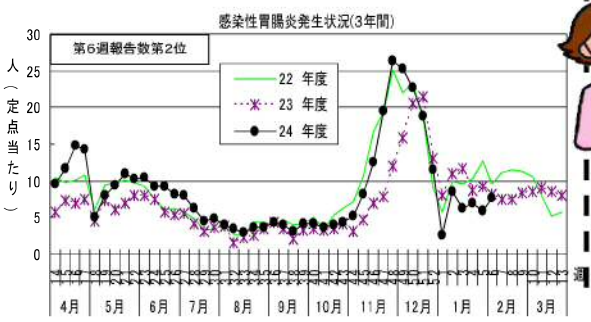
【感染症発生動向調査事業から】



平成２５年２月４日（月）～２月１０日（日）〔平成２５年第６週〕の感染症発生状況

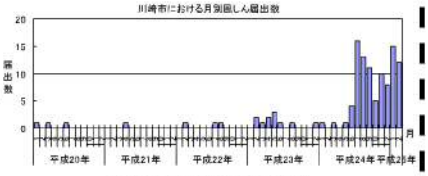
第６週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ　2)感染性胃腸炎　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
インフルエンザは定点当たり１９．２０人と前週（３２．８０）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎は定点当たり７．７６人と前週（５．９１）より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
風しんの届出が１０件あり、平成２４年６月以降、例年を大きく超える流行が続いているため、感染予防対策が重要です。





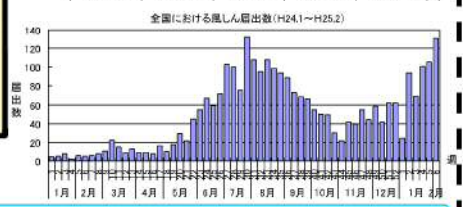
風しんの予防接種を積極的に！！～風しんの流行に注意～

昨年6月以降、全国的に風しんの患者届出数が非常に多くなっており、市内においても例年にないペースで患者が発生しています(グラフ参照)。今後も更に流行が広がる恐れがありますので、予防接種を徹底するなどの風しんに対する一層の対策が重要です。



先天性風しん症候群に注意！

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。
これらの障害を先天性風しん症候群といいます。



妊婦への感染を防ぐためには、妊娠可能年齢の方や妊婦の同居家族の方が風しんの予防接種を受けることが最も効果的です。風しんの予防接種を受けたことがなく、風しんにかかったことがない方は、風しんの予防接種を検討しましょう。

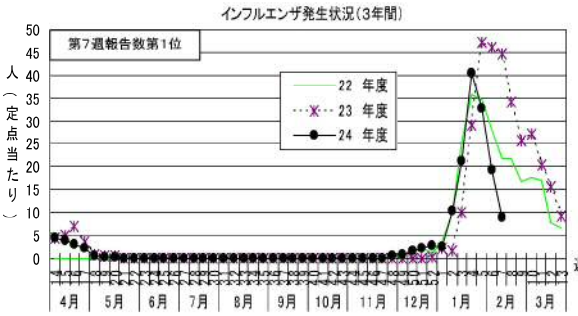
発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２００－２４１２

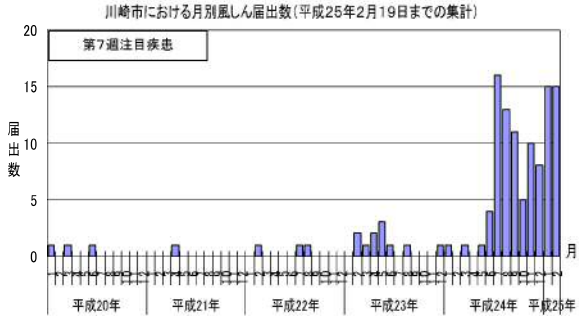
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年２月１１日（月）～２月１７日（日）〔平成２５年第７週〕の感染症発生状況

第７週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)インフルエンザ　2)感染性胃腸炎　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
インフルエンザは定点当たり８．９４人と前週（１９．２０）より患者報告数は大幅に減少し、例年より低いレベルで推移しています。
感染性胃腸炎は定点当たり７．１８人と前週（７．７６）より患者報告数はやや減少し、例年より低いレベルで推移しています。
風しんの届出が３件あり、平成２４年６月以降、例年を大きく超える流行が続いています。なお、成人男性の罹患率が高くなっていますので、同居家族等に妊婦がいる場合は、特に注意が必要です。



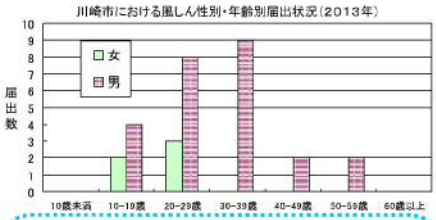


例年を超える風しんの流行！！～成人男性に高い罹患率～

昨年6月以降、全国的に風しんの患者届出数が非常に多くなっており、市内においても例年を大きく超えるペースで患者が発生しています(左下グラフ参照)。妊娠初期の女性がかかると、胎児に「先天性風しん症候群」を引き起こすことがあるため、妊娠の可能性のある方は特に注意してください。

右側のグラフのとおり、市内の届出状況では、20～30代の男性の罹患率が非常に高くなっています。

風しんに関する正しい知識を持ち、対策等を徹底しましょう。



風しんとは？

風しんの潜伏期間は約２～３週間で、発疹、発熱、リンパ節の腫れなどの症状が認められるウイルス性疾患です。

風しんに対する特異的治療法はありませんので、予防接種を受けることが最も重要です。

先天性風しん症候群とは・・・

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を先天性風しん症候群といいます。そのため、妊娠可能年齢までに予防接種を必ず受けましょう。

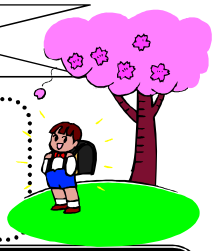
発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２００－２４１２

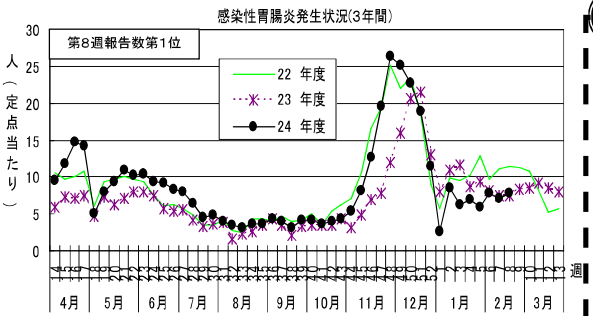
今、何の病気が流行しているか！

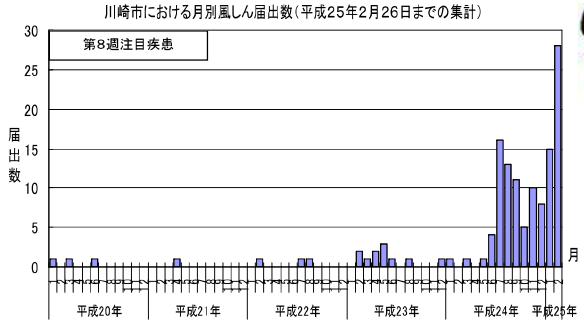
【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年２月１８日（月）～２月２４日（日）〔平成２５年第８週〕の感染症発生状況

第８週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)インフルエンザ　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
感染性胃腸炎は定点当たり７．７３人と前週（７．１８）より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
インフルエンザは定点当たり７．０４人と前週（８．９４）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
風しんの届出が１３件あり、平成２４年６月以降、例年を大きく超える流行が続いています。







『子ども予防接種週間』３月１日(金)～３月７日(木)

４月からの入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう。予防接種の目的は、「子どもたちや人々を感染症から守る」ことにありますので、必要な予防接種がすんでいるか、この機会に母子健康手帳で確認してみましょう。

特に、昨年6月以降、全国的に風しんの患者届出数が非常に多くなっており、市内においても例年を大きく超えるペースで患者が発生（左下グラフ参照）しています。

麻しん・風しん予防接種の対象者の方で、まだワクチンの接種を受けていない方は、この機会に必ず接種を受けましょう。

※子ども予防接種期間中は、通常の診察時間に接種を受けられない方のために、土曜や日曜に予防接種を実施している医療機関もあります。

次の方は、平成２５年３月３１日まで、市内協力医療機関にて無料で麻しん・風しんの予防接種が受けられます。（それ以降の接種は自己負担となります。）

第２期　小学校入学前の年度１年間
平成１８年４月２日～平成１９年４月１日生まれの方

第３期　中学１年生相当
平成１１年４月２日～平成１２年４月１日生まれの方

第４期　高校３年生相当
平成６年４月２日～平成７年４月１日生まれの方

※上記以外にも、第１期接種対象者として、生後１２月から生後２４月に至るまでの間にある方も、無料で接種を行うことができます。

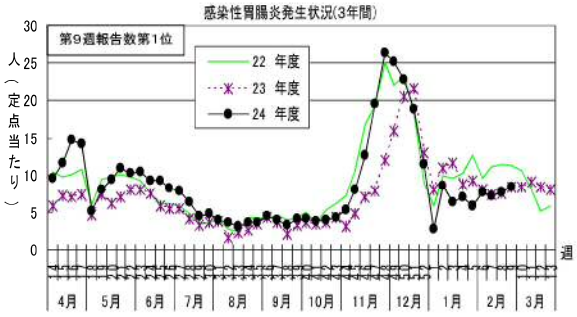
発行　川崎市健康福祉局健康安全室・衛生研究所・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２００－２４１２

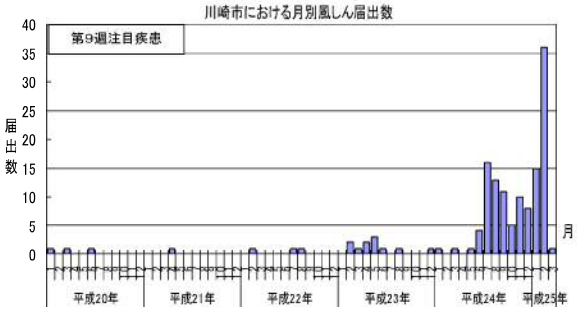
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年２月２５日（月）～３月３日（日）〔平成２５年第９週〕の感染症発生状況

第９週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)インフルエンザ　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
感染性胃腸炎は定点当たり８．３６人と前週（７．７３）より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
インフルエンザは定点当たり５．６７人と前週（７．０４）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
風しんの届出が９件あり、平成２４年６月以降、例年を大きく超える流行が続いています。特に、平成２５年２月は前月の２倍以上の報告があり、また、３月以降も引き続き報告が続いていますので、風しんへの対策（予防接種など）が必要です。





生まれてくる赤ちゃんのために「風しんワクチン」

昨年6月以降、全国的に風しんの患者届出数が非常に多くなっており、特に首都圏（東京都や神奈川県など）で顕著に増加しています。

また、抗体を持たない又は低い抗体価の妊娠中の女性が風しんにかかると、赤ちゃんに難聴や心疾患、白内障や緑内障などの障害*（先天性風しん症候群）*が起こる可能性があります。

風しんってどんな病気？

風しんウイルスによっておこる急性の発疹性感染症で、流行は春先から初夏にかけて多くみられます。

潜伏期間・症状

潜伏期間は２～３週間で、主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。

感染経路

風しんウイルスは飛沫（唾液のしぶき）などでほかの人にうつります。

抗体はみんな持っているの？

平成 23 年度の国の調査では、20～40 代の男性の 15%（20 代 8%、30 代 19%、40 代 17%）が風しんの抗体を持っていませんでした。

一方、20～40 代の女性の４%が風しんの抗体を持っておらず、11%では感染予防に不十分な低い抗体価でした。

妊娠中の女性は予防接種が受けられないため、流行地域では、抗体がない又は低い妊婦の方は、可能な限り人混みを避け、外出を控えるようにしてください。また、妊婦の周りにいる方(夫、子ども、その他の同居家族等)も、風しんを発症しないように、ワクチン接種を検討するなど予防に努めてください。

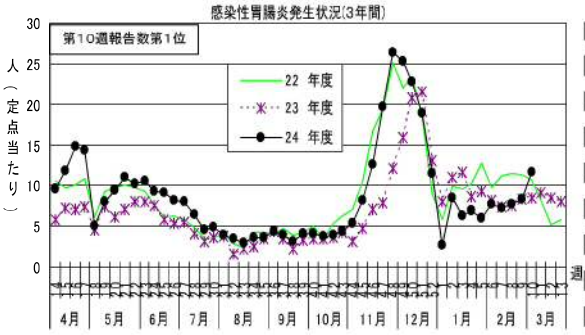
発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全室・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

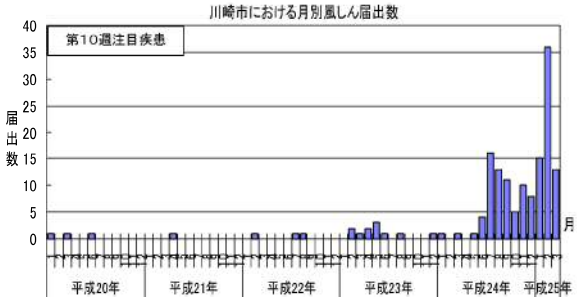
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年３月４日（月）～３月１０日（日）〔平成２５年第１０週〕の感染症発生状況

第１０週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)インフルエンザ　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
感染性胃腸炎は定点当たり１１．７０人と前週（８．３６）より患者報告数は増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
インフルエンザは定点当たり５．１９人と前週（５．６７）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
チクングニア熱の報告が１件（推定感染経路：インドネシアにおいて蚊から感染）ありました。なお、本報告は、チクングニア熱が報告対象疾病に追加された平成２３年２月以降、市内で初めての報告です。





海外旅行へ行く際には、「蚊（か）」に要注意

第１０週において、報告対象となった平成２３年２月以降、川崎市内で初めて「チクングニア熱」の報告がありました。患者はインドネシアへの渡航歴があるため、渡航先での感染が推定されています。

海外の蚊は、日本では発生がない感染症の原因となるウイルスなどを持っている可能性がありますので、主にアジア・アフリカ方面へ旅行される際には、感染予防対策が必要です。

チクングニア熱って何？

チクングニアウイルスによっておこる感染症です。

潜伏期間・症状

潜伏期間は３～７日程度で、突然の発熱や強い関節痛で発症します。また、関節痛は数週間から数ヶ月続く場合があり、重症例では神経症状（脳症）や劇症肝炎が報告されています。

感染経路

ネッタイシマカやヒトスジシマカなどの蚊に刺されることによって感染します。日本国内での感染事例はありませんが、東南アジアなどに渡航した際に感染する事例が報告されています。

海外で蚊に刺されることによって、デング熱やマラリアなどにも感染する可能性があります。

そのため、流行地に旅行する際は、長袖の服の着用や防虫スプレーの使用により蚊に刺されないようにしましょう。

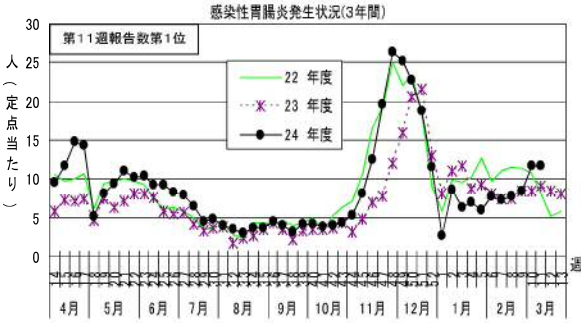
発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全室・各区保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

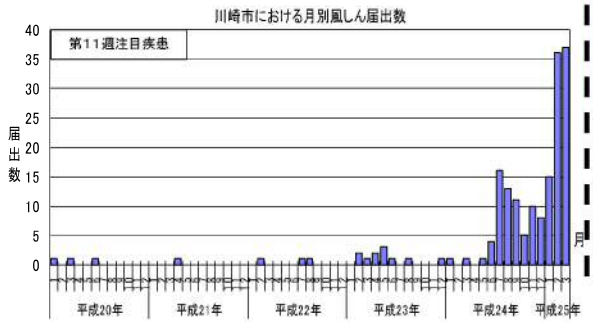
今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年３月１１日（月）～３月１７日（日）〔平成２５年第１１週〕の感染症発生状況

第１１週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)インフルエンザ　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
感染性胃腸炎は定点当たり１１．６４人と前週（１１．７０）より患者報告数はやや減少し、例年よりやや低いレベルで推移しています。
インフルエンザは定点当たり３．７８人と前週（５．１９）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
風しんの届出が２２件（臨床診断例１１件、検査診断例１１件）あり、流行の勢いが増しています。一般に、風しんの流行は春先から初夏にかけて多くみられるため、今後も発生動向に注意が必要です。



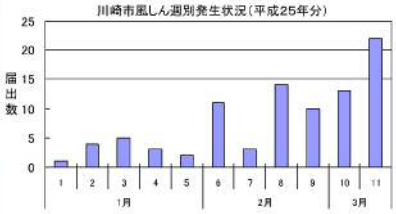


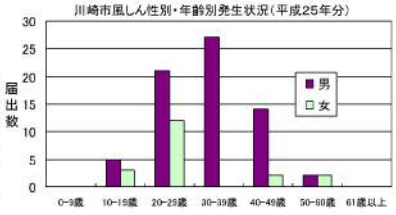
風しん流行の勢い増す！～春先に向け要注意～

昨年6月以降、全国的に風しんの届出数が非常に多くなっており、市内においても例年を大きく超えるペースで患者が発生しています。平成２５年においても１月以降、届出数は増加傾向が続いています(下グラフ参照)。

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらの障害を「先天性風しん症候群」といいます。

そのため、妊娠可能年齢までに、予防接種を検討しましょう。





1977 年から始まった風しんの定期予防接種は、当初、将来妊娠する可能性のある女子中学生に限定されたため、20～40 代の男性は予防接種を受けた人が少ない世代です。そのため、右グラフのとおり罹患割合が高くなっています。

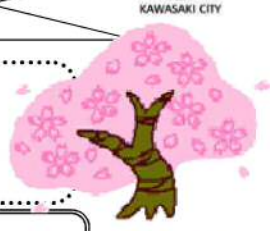
発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全室・各区役所保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

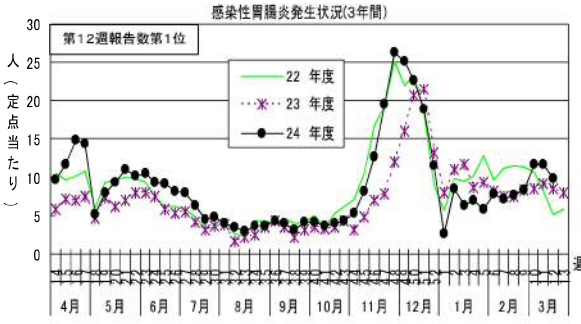
今、何の病気が流行しているか！

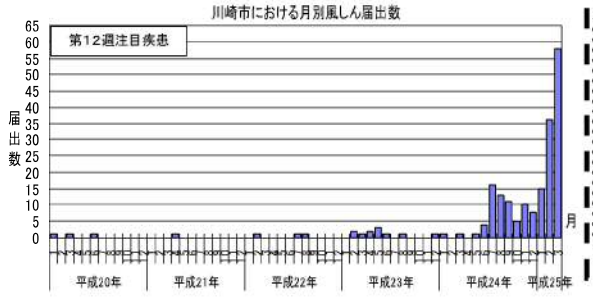
【感染症発生動向調査事業から】

平成２５年３月１８日（月）～３月２４日（日）〔平成２５年第１２週〕の感染症発生状況

第１２週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)インフルエンザ　3)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
感染性胃腸炎は定点当たり９．８２人と前週（１１．６４）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
インフルエンザは定点当たり３．１３人と前週（３．７８）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
風しんの届出が１２件（臨床診断例５件、検査診断例７件）あり、依然として報告数が多い状況が続いています。一般に、風しんの流行は春先から初夏にかけて多くみられるため、今後も発生動向に注意が必要です。







健やかに１年間を過ごすために
～感染症にかからないための予防策～

現在、インフルエンザ等の報告数は減少傾向にありますが、これから学校等の春休みが終わり、新年度の集団生活が始まると、感染症にかかる機会が増加しますので、感染予防に注意が必要です。

４月からの新しいスタートにあたり、必要な予防接種をすませるとともに、次に示す感染予防策を徹底しましょう。

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全室・各区役所保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

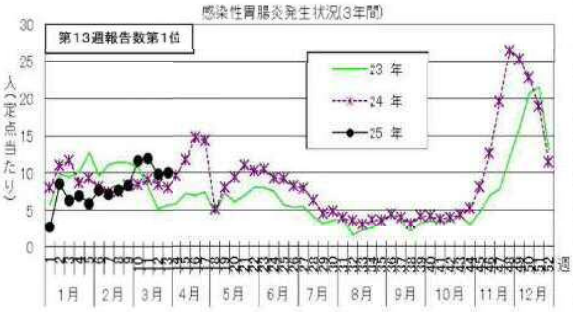
今、何の病気が流行しているか！

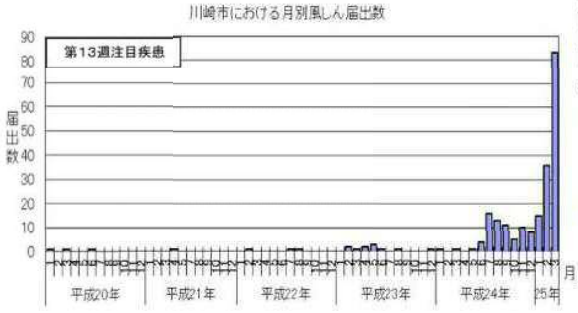
【感染症発生動向調査事業から】

KAWASAKI CITY

平成２５年３月２５日（月）～３月３１日（日）〔平成２５年第１３週〕の感染症発生状況

第１３週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)インフルエンザでした。
感染性胃腸炎は定点当たり１０．０９人と前週（９．８２）より患者報告数はやや増加し、例年よりもやや高いレベルで推移しています。
インフルエンザは定点当たり１．００人と前週（３．１３）より患者報告数は減少し、例年より低いレベルで推移しています。
風しんの届出が２２件（臨床診断例２件、検査診断例２０件）あり、依然として高いレベルで推移しています。一般に、風しんの流行は春先から初夏にかけて多くみられるため、今後も発生動向に注意が必要です。

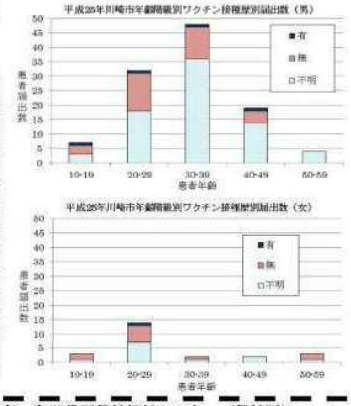




風しんワクチンの接種はお済みですか？

風しんは、昨年6月以降、届出数が全国的に非常に多くなっており、市内でも例年を大きく超えるペースで患者が発生しています(左下グラフ参照)。

特に、妊娠中の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。これらを「先天性風しん症候群」といいます。



予防接種の重要性を再認識！！

1977年から始まった風しんの定期予防接種は、当初、将来妊娠する可能性のある女子中学生に限定されたため、20～40代の男性に患者割合が高くなっていると推測されます。

また、ワクチン接種歴が「無」又は「不明」の方が96%以上を占めています。風しんはワクチン接種により防ぐことができます。

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

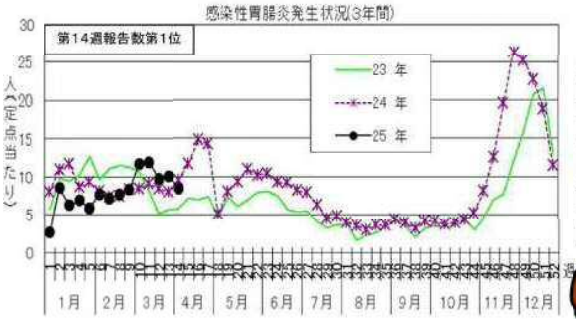
今、何の病気が流行しているか！

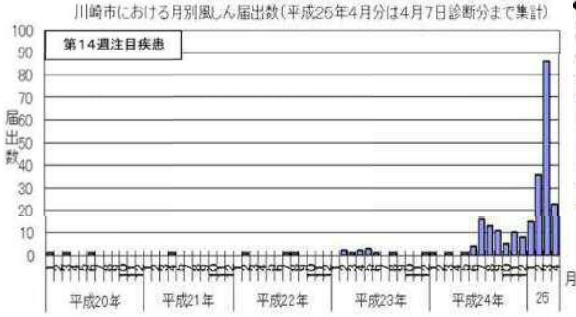
【感染症発生動向調査事業から】

KAWASAKI CITY

平成２５年４月１日（月）～４月７日（日）〔平成２５年第１４週〕の感染症発生状況

第１４週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)インフルエンザでした。
感染性胃腸炎は定点当たり８．４８人と前週（１０．０９）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
インフルエンザは定点当たり１．０６人と前週（１．００）より患者報告数はやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
風しんの届出が２３件（臨床診断例８件、検査診断例１５件）あり、非常に高いレベルで推移しています。一般に、風しんの流行は春先から初夏にかけて多くみられるため、今後も発生動向に注意が必要です。





知らない間にあなたも「風しん感染者」？

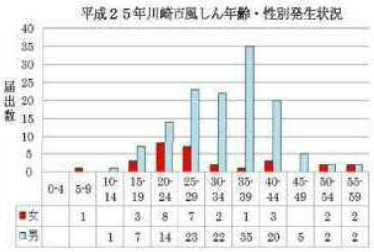
風しんは、感染しても症状が現れない人や症状が軽くて気づかない人が30～50%程度います。これらの人もウイルスを排出するため、知らない間に妊婦に感染させ、胎児に「先天性風しん症候群」を引き起こすことがあります。

そのため、今後生まれる赤ちゃんや周囲の人を守るため、妊娠を予定する女性だけでなく、周囲の方々についてもワクチン接種をお勧めします。

～先天性風しん症候群～

妊娠中にお母さんが風しんに感染すると、赤ちゃんが生まれつき心疾患、難聴、白内障などの障害を持って生まれてくることがあり、この病気を「先天性風しん症候群」と言います。

そのため、生まれてくる命を守るため、妊娠予定の２ヶ月前にワクチンを受け、風しんを予防することが大切です。



	0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59
■女		1		3	8	7	2	1	3		2	2
□男			1	7	14	23	22	35	20	5	2	2

上のグラフのとおり、予防接種制度上ワクチン接種機会の少なかった20～40代の男性に患者が多くなっています。

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

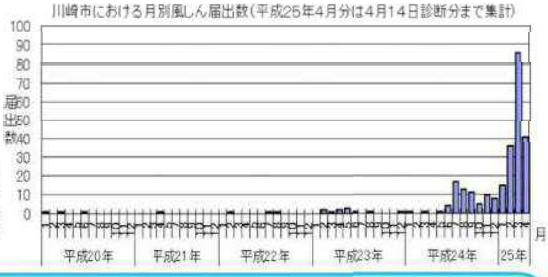
平成２５年４月８日（月）～４月１４日（日）〔平成２５年第１５週〕の感染症発生状況

第１５週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)水痘でした。
感染性胃腸炎は定点当たり８．９７人と前週（８．４８）より患者報告数はやや増加しましたが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり１．９７人と前週（１．６７）より患者報告数は増加し、例年よりやや高いレベルで推移しています。
風しんの届出が１５件（臨床診断例３件、検査診断例１２件）あり、前週と比較すると届出数は減少しましたが、依然として非常に高いレベルで推移していますので、引き続き、発生動向に注意するとともに予防対策（ワクチン接種の検討等）の徹底が重要です。

風しんの予防接種助成を実施します！！～風しんの流行に伴う緊急対策～

風しんは、例年を大きく超えるレベルで患者数が増加しており、特に成人の男性に多くなっています。また、妊娠中の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障などを主な症状とする「先天性風しん症候群」の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

そのため、川崎市では、風しん患者の重症化及び「先天性風しん症候群」の発生を予防することを目的とし、次の対象者に対して、予防接種費用の助成を平成２５年４月２２日から開始しますので、この機会に予防接種を御検討ください。



風しん緊急対策（MRワクチン接種）の内容

妊娠中の方は接種できません。また、接種後２か月は避妊する必要があります。

対象者

川崎市民で、原則として風しんにかかったことがなく、予防接種を受けたことがない方であり、次のいずれかに該当する方については、この緊急対策により１回接種することができます。

1. 妊娠している女性の夫（児の父親）
2. ２３歳～３９歳の男性（昭和４９年４月２日～平成２年４月１日生まれ）
3. ２３歳以上の妊娠を予定又は希望している女性（平成２年４月１日以前の生まれ）

※この緊急対策に関することは、お住まいの区の区役所保健福祉センター地域保健福祉課までお問い合わせください。

接種方法

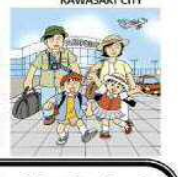
接種希望の対象者の方は、本事業協力医療機関（本市ホームページをご覧ください。）において、ワクチン（麻しん風しん混合ワクチン）を2,000円程度で１回接種することができます。接種の際には、対象者であることを証明できるもの（保険証）をお持ちください。

接種期間　平成２５年４月２２日～平成２５年９月３０日（予定）

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０　※緊急対策（ＭＲワクチン接種）に関することは、各区役所保健福祉センター地域保健福祉課までお問い合わせください。

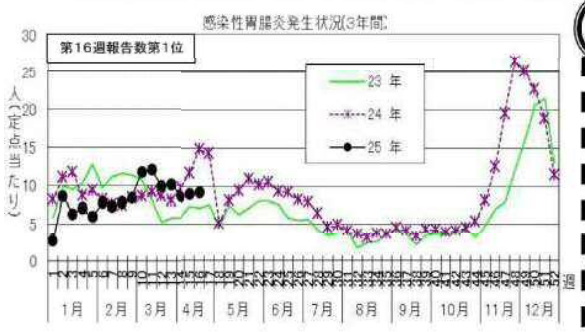
今、何の病気が流行しているか！

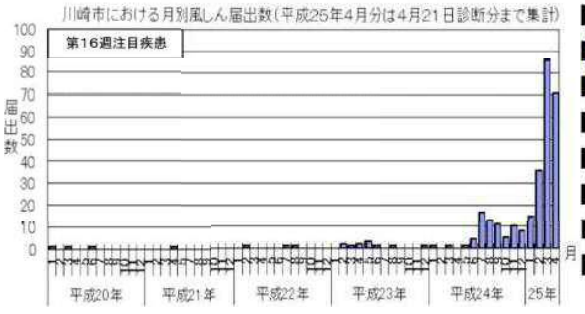
【感染症発生動向調査事業から】



平成２５年４月１５日（月）～４月２１日（日）〔平成２５年第１６週〕の感染症発生状況

第１６週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎　2)Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎　3)インフルエンザでした。
感染性胃腸炎は定点当たり９．１８人と前週（８．９７）より患者報告数はやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり２．７９人と前週（１．９７）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。
風しんの届出が２５件あり、前週と比較すると届出数は増加し、依然として非常に高いレベルでの報告が続いています。そのため、引き続き発生動向に注意するとともに予防対策（ワクチン接種の検討等）の徹底が重要です。





鳥インフルエンザＡ（H7N9）の情報に注意！！

今般、中国において鳥インフルエンザＡ（H7N9）ウイルスに感染した患者が報告されています。ゴールデンウィーク等に中国へ渡航される場合には、今後の情報に注意が必要です。なお、現時点では、ヒトからヒトへの感染は確認されていません。

鳥インフルエンザ対策　注意

流行地では鳥に直接触ったり、病気の鳥や死んだ鳥に近寄ったりしないようにしましょう。また、手洗いや咳エチケットをこころがけてください。

中国から帰国後 10 日以内に、発熱や咳などインフルエンザ様の症状が出た時は、最寄りの保健所に電話にて御相談ください。
その際、中国に滞在していたことを告げてください。

インドネシアやエジプトなどでは、別の型の鳥インフルエンザ（H5N1）ウイルスの感染も報告されています。海外では、鳥などの動物が、日本で発生がない感染症の原因ウイルス等を保有している可能性がありますので注意してください。

患者等発生状況　平成２５年４月２２日現在（内閣官房新型インフルエンザ等対策室発表）
・鳥インフルエンザＡ（H7N9）ウイルスに感染が確定した者：102名（うち死亡者20名）
・発生地域：上海市34名（うち死亡者11名）、北京市1名、江蘇省23名（うち死亡者3名）、安徽省3名（うち死亡者1名）、浙江省38名（うち死亡者5名）、河南省3名

発行　川崎市健康安全研究所・健康福祉局健康安全部・各区役所保健福祉センター（保健所）
（問い合わせ先）　０４４－２７６－８２５０